

夏の横浜で体験、船や港のあれこれ!

一基一会

横浜市立領家中学校

編集長 枝村 裕一
記事 原 剛史
カメラ 角田 雄一

横浜港で見た横浜の誇り

7月も後半に入り、真夏の暑い日差しが照りつける中、僕たちの住む横浜の象徴である横浜港の様々なることを知るため、横浜港を見学しに行きました。そこで、たくさんの人から色々な話を聞くことができました。

僕たちは、7月22日、横浜港見学会・大黒ふ頭見学コースに、枝村・原・國西・刈田・角田の5人で参加してきました。最初に大黒ふ頭C4コンテナターミナルを訪れました。コンテナターミナルとは、海上輸送と陸上輸送の出入の割合が99.7%と圧倒的に多いそうです。この



クルージングのデッキにて、夏の日差しと海風を浴びる5人

数字を見て僕はビックリしました。横浜港は日本のお家芸である自動車を輸出したり、国を支える工業に必要な天然ガスや石油などを輸入したりする中心港であることを知りました。これは、横浜市民の僕としては、結構うれしい話でした。

もう一つ驚いたことは、日本は食料のほとんどを外国からの輸入に頼っているという事です。例えば、人気日本食の天ぷら

倉庫では、なんと、ここにカジノ施設を作るという計画があるそうです。そして、皆で橋を真近で見ると、世界の大船

海から見た横浜の名所

巨大なキリン

岸壁には「ガントリークレーン」(通称キリン)

大黒ふ頭C4コンテナターミナルの施設見学では、コンテナの積み下ろしや保管、貨物の検査などが行われています。

横浜を支えるふ頭の活躍

皆さん知っていますか! 貨物を運ぶ時、コンテナを使って船に乗せるのですが、国によって色々なコンテナがある大変です。そこで、世界統一規格があることを。

高さ2.6mと2.9mの2種類があります。世界共通の規格のコンテナを使うことによって、海上輸送は飛躍的に作業効率が上がったそうです。

ラーに直接コンテナを移し替える時に使う大きなクレーンがありました。使い方はコンテナの四隅に開いている穴に金具をひっかけ、なんと、UFOキャッチャーと同じ原理で引き上げるそうです。

船長さんにインタビュー!

クルージングで船長をやっていた商船三井の久業誠司さんにインタビューしました。

Q1. 今までどんな船の船長をしてきたのですか。
A1. 貨物船、コンテナ船、油タンカー、客船「日本丸」などに乗りました。

Q2. 船長とはどんな仕事ですか。
A2. 安全かつ効率的に船を運航することです。

Q3. 船長はどのようにしたらなれるのですか。
A3. 商船高校、商船大学などの船の乗組員を育てるための養成所のようなところに入るのが一番の近道です。

Q4. 今まで何か国くらいに行きましたか。
A4. 50か国ほどの国に行きました。

Q5. 船長になって今まで一番楽しかったことはなんですか。
A5. 海外に行く仕事の時にご飯を食べに行ったりおいしいお酒を飲んだりできることがたまにあります。

Q6. 今まで一番大変だった事は何か。
A6. 乗組員が命を落としたり、船が事故を起こしたりした時がすごく大変でした。

Q7. 仕事をしていて気を付けていることはありますか。
A7. 貨物や船、乗組員をどう守るかですね。

Q8. 船長になりたい人に一言お願いします。
A8. 仕事柄海外に行くことも多く世界中に知り合いができます。日本は島国なので船はこれからも絶対に必要になります。なので頑張って下さい。貴重なお話を久業船長さんありがとうございました。(原)



横浜港開港からのあゆみ

【江戸時代】

- 1853年 米國ペリー提督浦賀に来航
- 1859年 横浜開港（現在の象の鼻地区）

【明治】

- 1889年 横浜に市制がしかれる
- 1909年 開港50周年

【大正】

- 1913年 新港ふ頭 第一レガ倉庫完成（現在の赤いカ'倉庫）
- 1914年 新港ふ頭 日本初荷役大型クレーン設置

【昭和】

- 1930年 山下公園が完成
- 1959年 開港100周年
- 1963年 山下ふ頭が完成 本牧ふ頭建設着工
- 1964年 大さん橋国際客船ターミナルが完成
- 1968年 フルコンテナ船第1船本牧ふ頭に入港

【平成】

- 1990年 大黒ふ頭埋立完成（第2期）
- 2001年 南本牧ふ頭に国内初の水深（-16m）高規格のコンテナターミナル供用開始
- 2005年 本牧ふ頭BCコンテナターミナル供用開始
- 2009年 開港150周年
- 2014年 本牧ふ頭D-4コンテナターミナルの再整備完了

僕たちの横浜港

くらしを支える港

僕たちが暮らす横浜は、世界でも有名な港町です。今ではおなじみのアイスクリームや新聞などが、初めて日本に持ち込まれたのも横浜港なのです。

横浜港は、一八五八年に締結された日米修好通商条約に基づき、安政の開国による開港五港（神奈川、長崎、函館、兵庫、新潟）の1つとして、開港しました。

横浜港が開港して以来、日本はたくさんのお国と貿易を行ってきました。実は、その貨物のほとんどは、船で運ばれています。

横浜港では、1年間に約1万隻もの船が外国との間を行き来しているのです。

また、横浜市内で働く人たちの約30%が何らかの形で横浜港に関係しています。

横浜港見学会大黒ふ頭コースで横浜港に関する色々なことを知ることができました。そこで僕たちは横浜港の歴史や役割などを調べることにしました。そこには、僕たちが知らなかったことがたくさんありました。

横浜港の役割

現在の横浜港は、巨大な消費地である首都圏を背後圏に持つ商業港として、また、京浜工業地帯などの臨海部工業地帯の工業港として発展を遂げています。

経済を支える商業港

横浜港には船を停泊したり、貨物の積みおろしや管理ができる「ふ頭」が10カ所あります。

その中で大黒ふ頭、本牧ふ頭、南本牧ふ頭にコンテナターミナルが整備されています。

大黒ふ頭

大黒ふ頭は、海から輸出入される貨物の増加などに対応するため、一九



本牧ふ頭

本牧ふ頭は、毎年、横浜港の全体305万トンの貨物取扱量の約6割（約175万トン）を担う中心的なコンテナターミナルで、週60便（うち、東南アジア）

僕たちのY150



僕たちは、小学3年生の時、遠足として、横浜港開港150周年記念のイベントに行きました。会場はみなとみらいで、色々な展示物があった。

アからは毎週21便、中国からは毎週22便）が寄港しています。二〇〇九年度からは、コンテナ貨物量の増加や船舶の大型化に対応するため、整備しています。

南本牧ふ頭

南本牧コンテナターミナルは、日本で初めて水深16mの大水深岸壁として



観光を支えるクルーズ港

大さん橋

大さん橋は、一八九四年に元となる鉄橋が完成し、メリケン波止場と呼ばれていました。一九六四年に東京オリピックに合わせてターミナルが完成しました。

産業を支える工業港

京浜工業地帯

京浜工業地帯は横浜市を中心に、東京都、神奈川県、埼玉県に広がる工業地帯です。



その中でも私たちが見た港は工場の専用ふ頭から貨物船に原材料や製品を直接積み降ろしできる設備をもつ工業港です。

おいしいバナナが届くまで



バナナが入ったコンテナが、まず向かった先は出田町ふ頭。バナナ専用の倉庫があります。



コンテナからだされたバナナはまだ、青く、硬い状態です。蜜と呼ばれる特殊な倉庫に運ばれたバナナは、ここで数日間熟成され、黄色いバナナとなり、お店に向かいます。



約1か月をかけ、さまざまな人を経て、おいしいバナナを僕たちは食べることができました！

編集後記

僕たち囲碁部3年生は、4人で入部してから3年間仲良く、一人も欠けることなく一生懸命活動してきました。

そして、3年間の思い出づくりをしようとして新聞づくりが大好きな角田先生のもと、新聞の作成を始めました。4人とも初の新聞づくりで、慣れないことも多かったのですが、構想を一から練って完成させました。



（原）

（枝村）